

研究公開文書

2023年 7月 24日

研 究 名	膝前十字靭帯再建術を施行した患者における膝蓋下脂肪体の動態変化と競技復帰時の身体機能との関連
研 究 の 概 要	<p>膝前十字靭帯損傷は、発生率は高くないが競技復帰まで1年以上要する重症度の高いスポーツ外傷である。また、受傷後の競技復帰率が85%以上と高く、症状なく競技復帰できるよう機能回復が必要であると考えられる。</p> <p>競技復帰時に問題となる症状とした術側の筋力低下やAnterior Knee Pain (AKP) 等が挙げられる。近年、筋力や AKP と膝蓋下脂肪体との動態変化との関連が横断研究で多く報告されている。しかし、復帰過程での膝蓋下脂肪体の動態変化が競技復帰時の身体機能に関連するかは不明である。</p> <p>競技復帰過程での膝蓋下脂肪体の動態変化が競技復帰時の身体機能にどのように影響するか検討することで理学療法アプローチの手掛かりとなり、競技復帰時の機能回復の一助になると考えられる。そこで本研究の目的を、膝前十字靭帯再建術を施行した患者における術後3か月の膝蓋下脂肪体の動態変化と競技復帰時の身体機能との関連について検討することを目的とした。</p>
研 究 対 象	対象は倫理委員会承認後から膝前十字靭帯損傷により膝前十字靭帯再建術を施行した患者とする。

研究責任者	小田原市立病院リハビリテーション室理学療法士 平田萌々花
研究実施期間	倫理委員会承認後～2028年3月
連絡先	小田原市久野4-6番地 小田原市立病院 0465-34-3175